NTS物語

二、情報・出版企業として

⑱科学技術情報事業部（下）

～人とシステムの強化～

吉田　隆

平成七年六月から新事業が本格的に稼働を始めたものの、成果は思うように上がらなかった。JICSTへ中間報告を行う十月までの半期の売上合計は約三百万円と、発注内示額一億円はおろか実行計画三千五百万円の一割にも満たなかったため、強い指導を受けることになった。

不振の要因は、抄録応募者を思うように活用できなかったことと、三名の離脱者もあり複数の分野でリーダーが不足していたことであった。そのため○○部長は、当時既に三百名を超えていた抄録応募者に対し専門分野に関する詳細なアンケートや模擬テストを実施して有能な抄録者を確保するかたわら、抄録作業の効率化を計るべくマニュアルを作成するなどの努力を重ねた。一方で、○○部長と私は、リーダー候補者を紹介していただくため、セミナーや出版等で以前からお世話になっていた食品、薬品、電子・電気、土木・建築分野の先生方を訪ね歩いた。その甲斐あって平成八年にはリーダーも十名まで増員できた。平成七年の夏から秋にかけ、都心の炎天下を二人で汗だくになりながら、事業存続を賭けて駆け回ったことを、今ではなつかしく思い出す。

人材のみならず、事業存続の鍵を握る重要な課題が、もうひとつあった。それはコンピュータである。当時JICSTが年間約七十万件の論文の抄録データベースを作成していたことは先述したが、抄録作成業務の外部委託という改革の時代の流れの中で、抄録作成作業も手作業からパソコンへと移行しつつあった。またJICSTと外部委託機関との間をインターネットで結ぶ必要も出てきた。そのため委託機関およびリーダー全員にMacパソコンの配備が必要となり、NTSにもまず六台が支給された。そうした状況で、コンピュータを使いこなせる環境の整備が、事業の進展に不可欠となったのである。○○部長はパソコンアレルギーを自認する手仕事信奉者だったが、さすがに我流を通すわけにもいかず、昼間は人材の確保に東奔西走し、五時以降は慣れないキーボードと格闘する日々が続いた。

平成八年一月に、一つの転機が訪れた。コスモ石油からJICSTに出向していた○○○○○現副部長と○○○○○副部長（当時、現嘱託）の二名が、それぞれ無機・物理化学部門（C2）と応用化学部門（C3）のリーダーとしてNTSに移籍したのである。二人の加入は事業の進展に大きな弾みとなった。第一に、受注件数が大幅に増加した。初受注であるC2部門の受注件数は、リーダー一人分としては異例ともいえる、通常の二倍強の年間四千五百件にも上った。C3部門も○氏に次ぐ二人目のリーダーを迎えて、受注件数約二千件を加え、事業としての厚みが増した。両部門合わせて六千五百件、金額ベースで約二千万円の受注増となり、○○部長が掲げた実行計画が一気に現実のものとなったのである。第二に、事業の管理・運営体制がより強固なものとなった。新たに加入した両名は、いずれもJICSTでの業務体験を通して仕事の流れを熟知しており、○○部長が事業を掌握するうえで大きな支えとなることができた。第三に、受発注を中心としたコンピュータ化を推進できた。その立役者であった○○○副部長とコンピュータとの出会いは、分析機器のオンライン処理に取組んだコスモ石油時代の昭和四十年代に遡る。NTSでは、まず手書きミスを無くし、作業効率を上げ、省力化を図ることから始めて、半年後には抄録作成から事務管理に至るまでのパソコンによる一元的管理システムの基本的な仕組みができ上がった。その仕組みは、概ね以下の四つで構成される。

①JICSTからの受注文献の書誌情報（論文のタイトル、執筆者、所属機関）と記事情報（書誌情報を除く論文の本文）のコンピュータへの確実な取込みと管理

②発注先の各部門リーダーおよび抄録者名、発注時期、進捗状況の管理

③納品データの品質管理

④JICSTへの請求、リーダーと抄録者への支払い等の財務・経理管理

○○○副部長は、リーダー業務と兼務しつつ、上記①～④のシステム構築に全力で取組み、その後もたゆまぬ改良を重ねた結果、さらに一年後の平成九年夏には、ほぼ現在の形と同じ科学技術情報事業部の情報管理システムが完成したのである。

こうした努力が実り、平成七年十月以降には売上が急速に伸び始めたものの、上期の低迷が影響し、年度の売上は実行計画三千五百万円に対し一千六百万円に終わった。しかし、第十一期（平成七年七月～平成八年六月）は、総売上二億九千五百万円の約十二%を占める三千四百九十七万円の売上となった。その後五年の歳月を経て、今年度の抄録受注件数は約四万五千件を達成し、この五年間で事業規模は約五倍に成長した。その要因は、現在二十名を超える卓越した技量を備えたリーダーの存在と、厳しい品質検査を常に高いレベルでクリアする事業の管理・運営体制がJICSTの信頼を得た結果であることは言うまでもないが、そこには事業草創期における○○部長や○○○、○○両副部長の「人とシステム」という壁の克服に向けられた執念があったことも、決して忘れてはならないだろう。

（文中JICSTは日本科学技術情報センター、現科学技術振興事業団（JST）の略）

掲示板

今月の人事

三月三十一日付退社
エヌエスハイテック
科学技術情報部

四月一日付入社
システム開発室
営業部営業二課
営業管理課
編集企画部編集一課

四月十五日付出向解除
営業部副部長

社内清掃について

次の日程で床掃除を行ないますので、宜しくお願い致します。当日休日出勤の予定がある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。

本社事務所内　五月二十日（日）
営業部内　五月十九日（土）

◇編集後記

●ゴールデンウイークを前にして財布と相談・・・・カウチポテトするか……。（福）

●砂町弁でちょっと失礼、あの帝王切開ツーのはシーザーがこれで誕生したことからきているってサ、知らなかったのは私だけかイッ！（野）

●NTSに入社して初めて寝坊をしました。起きたらなんと9時！夢の中では会社に着いていたのにな～。（村）

●初夏を目前に街にはノースリーブ姿の女性もチラホラ。条件反射的に思い出すのがG・ルルーの『胸像たちの晩餐』というコワーい話。話題の『ハンニバル』以上かも。（縄）

●リサイクル流行りでその関連ショップは大繁盛。そのためごみにもランクがつけられて取り引きされる時代に。いまやリサイクルは精神論では話れない。（伊）

NTSニュース二〇〇一年四号（通巻三十〇号）
二〇〇一年四月三〇日発行